

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200683		
法人名	有限会社 みんなの家		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地	宮城県登米市中田町宝江新井田字並柳前57番地		
自己評価作成日	令和元年11月8日	評価結果市町村受理日	

#### ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2019年11月27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模多機能介護施設として同じ敷地内に『通って時々泊って、そして住むこともできる』施設がある。また、複合型施設として保育所や障害者GHも等もあり、事業所間の交流や地域の方々、そして地域を超えて多くの方々が利用してくださり、グループホームの利用者様との関りや交流が多く賑やかである。特に施設内行事をはじめ外出行事も多数計画されており、行きたかった場所や行ったことのない場所にも積極的に行けるようにしている。そして何よりも今までの家庭生活を継続できるように、ゆったりと尚且つ刺激のある生活で、自由にその方にあった生活スタイルを考え支援できるようにしている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「有限会社みんなの家」が、2006年3月に開所した、古民家風の木造平屋建て1ユニットの事業所である。同敷地には、デイサービスやショートステイ、サービス付き高齢者向け住宅、障がい者就労支援施設、保育所、カフェ等の複合型施設が併設されており、法人として地域に多様にかかわることを目指している。全職員で作成した理念「元気に 楽しく 地域とともに」の実現に向けて、利用者のできることややりたいことを尊重し、自立に向けた活動を重視しながら、一人ひとりに合ったケアに努めている。また、地域連携が密で、地域の行事や保育園、小学校、地域ボランティアとの交流も盛んであり、防災面でも協力が得やすいよう環境づくりも行っている。利用者の希望を考慮した多彩な外出や行事を常に工夫し、楽しく豊かな生活に向けて職員が一丸となって取り組み、家族からの信頼も厚い。管理者は職員の意見や提案に耳を傾けて運営に活かし、職員は意欲的に自主性を発揮している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームみんなの家 ）「ユニット名

」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人共通の基本理念のもと、毎年スタッフで検討し立てるグループホームも独自の基本理念がある。所属職員はそれを共有しケアに当たっている。	年度初めに、全職員で事業所理念を見直し、「元気に 楽しく 地域とともに」とした。利用者の趣味や特技を生かし、楽しく張り合いのある毎日を過ごせるよう、行事や活動を常に模索している。介護計画のサービス内容にも反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設主催の行事には地域の皆様をお招きし、その逆に地域から利用者様のみならず職員も一緒に招待されたり、協力し合ったりとお互いに足を運びあい交流している。	地域とは多彩な行事など、機会を通し積極的に交流している。法人主催の夏祭りや敬老会には家族や地域住民の参加が多い。近くの小学校や幼稚園の行事、「十三講祭り」や地区の敬老会、隣接する施設で開かれるオレンジカフェにも参加している。高校の実習生、踊りや民謡のボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	恒例となっている『オレンジカフェ』を実践。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し各関係機関や地域の代表の方々を推進委員とし、ご家族や利用者様を含めて参加いただききいたんのない意見をいただいている。	2ヶ月に1回、市職員、地域包括職員、区長、第三者委員、顧問、家族、利用者代表と職員メンバーで開催されている。活動報告や行事案内の際には協力を呼びかけ、全員から意見を聞き、活発な話し合いの場となっている。アドバイスを受け、大雨の際の避難場所の変更について市に協力要請をした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として参加いただき、ご指導いただいたり、通信発行の際にはお届けし状況を見て頂いている。	市職員が、毎回運営推進会議に出席し、意見交換している。市からは、介護保険についての情報、虐待や口腔ケアなどの研修案内が届き、詐欺事例の注意喚起の連絡もあった。外部評価結果、目標達成計画書を市に提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当初より掲げている『身体拘束排除宣言』をもとにケアを実践し、研修委員会で行われる研修等でも勉強している。	外部研修に参加し、内部研修で共通理解をしている。利用者の希望があれば自由に外に出ることができるよう支援し、地域の見守りの協力も得られている。午後8時から翌朝6時まで防犯上施錠し、昼間はチャイムで対応している。職員の言葉遣いがスピーチロックに当たらないか日々確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修委員会で行われる研修で勉強し、現場でも常に職員同士声を掛け合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修でも学ぶ機会がありまた以前には実際利用されていた方もおり、実践しながら勉強していた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明はもちろん、入居前・入居後や見学時も説明は十分に行い相談にも応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にも積極的に参加いただき、要望や意見を頂き、他の委員の皆様や関係機関の皆さんにも聞いていただいている。	運営推進会議や面会時、通院時に家族の意見を聞いている。面会時は特に家族に積極的に声がけし、情報提供をしている。遠方の家族には電話や手紙で要望を確認している。利用者の意向を第一にした生活になるよう、意見・要望を運営や支援に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議に参加し意見を聞いたり、随時必要な時は声をかけ面談をしたり、相談にいつでも乗れるようにしている。	会議や面談時、日頃からも職員から意見を聞き、働きやすい環境を整え、利用者の状態に合ったケアについて確認している。個人面談は年2回、目標達成計画、ストレス、異動希望などを聞いている。資格取得に向け試験対策講座やシフト、資金面での支援がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場に出向き見たり、意見を聞ききました、気軽に話ができる状況を作り状況の把握を行っている。資格取得についても支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会への参加を推奨し、随時参加できる環境を整えている。また内部研修に関しても年間計画にのっとり実践されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会へ所属すると共に、市内外への研修等に参加することで交流できるよう参加を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談からじっくりとお話を聞きとり、安心して入所できるように努めている。また入所後に関しても常に傾聴の姿勢で関わりを持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様お話はじっくりと聞き、特に苦労話には傾聴の姿勢を崩さず安心して入所し頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設担当のケアマネージャーが、アセスメントをしっかりと行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員は一方的な関係にならない様に、助け・助けられながら家族のような関係を築けるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には通院や行事参加等協力をいただきながら、関りを絶やさず相談しながら支援できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人へ会うために外出を欠かさず、行事や誕生会等へお招きもしている。	馴染みの床屋、買い物、散歩、神社(初詣)などに出掛けている。家族と温泉や食事、買い物を楽しんだり、通院、墓参りなどに出掛けられるよう支援している。夏祭り、はつと祭り、敬老会、サンマ祭りなど多彩な行事を通し馴染みの人や家族と交流が継続できるよう取り組んでいる。友人、仕事仲間、近所の人が面会に訪れ、都度馴染みの関係が途切れないよう、職員が声掛けするなどの支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や特徴を把握し、関係がスムーズに図れるようにし、時には架け橋になり関係を築けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居利用者様は登米市内出身者が占めており、退去後もご家族にお目にかかる機会もある。気軽に声をかけたり、施設通信を送り関係を継続したりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをしっかりと行う意味でも、本人からよく話を聞き日常会話の中からも汲み取っていく。意思確認が困難難方からは家族から聞き取りを行ったり、生活歴から読み取っている。	何気ない日常生活の会話の中から思いや希望を把握し対応している。昼食時やお茶の時間、入浴中などにゆっくり話を聞いている。家族からの情報や生活歴、職歴などを元に裁縫や花の手入れなどの趣味や得意なことを活かす工夫をしている。把握が困難な場合は、利用者の行動や表情から、希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からお話を聞き、しっかりとアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントおよび、24時間パターンシートを活用し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者と話し合いを持ち確認している。また職員間では会議で話し合い、事業所内職員で共有できるようにしている。	介護計画は基本6ヶ月に1回、申し送りノートを確認しミーティングを行い見直し、利用者の体調、状態の変化に応じて都度見直し作成している。かかりつけ医や利用者、家族の意見も介護計画に反映させている。家族には、面会時や電話や郵送で説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間パターンシートや個別の記録等を通してモニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や希望を考慮しながら、ニーズに合った対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを始め、活用できる地域資源を活用しながら生活できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望で決定されており、かかりつけ医と施設は家族を通して関係を築いている。	本人・家族が希望するかかりつけ医を聞き、受診は基本家族付き添いとしている。普段の状態は口頭で、必要に応じてメモや血圧一覧を渡している。受診後は結果を確認している。同法人の看護師2人が毎日、利用者の状態を確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内看護師とは常に情報を共有し相談・報告を欠かさず行い利用者の体調管理に努めている。夜間でも看護師のオンコール対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の連携室と連携したり、情報提供書で情報を共有している。また、入院中は週何回か面会し担当看護師と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時点で意思確認をとっており希望文書を保管し、定期的に変更がないか確認を行っている。またその段階に入った際に最終確認も行っている。	入居時に「重度化対応に関する指針」を説明して同意を得ている。年1回、希望に変更がないか確認している。終末期には、病院でかかりつけ医と家族と職員で対応について話し合っている。計画的に看取りの研修を行い、今年度は「やまと在宅診療所」の看護師による「いのちに寄り添う研修会」を開催した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員による救急救命・AED講習会が毎年行われ全職員対象に行なわれている。また、施設内外の研修会にも参加。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に施設内防災訓練が実施され参加している。地域の訓練にも参加し協力体制を築いている。	火災、風水害、洪水、地震対応マニュアルが作成されている。年2回、消防署立会いのもと、夜間想定訓練も含めた避難訓練を行っている。地域住民の参加もある。毎月、防災訓練として炊き出し訓練、通報訓練、図上訓練など多様な場面を想定し訓練を行っている。消火設備点検は年2回、業者が行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルを作り研修を行っている。目立たない羞恥心へ配慮し、言葉かけや対応に注意している。	年1回接遇やプライバシー保護についての研修を行っている。居室に入るときにはノックや声掛けしてから入る。排泄介助は、さりげなく支援している。生活歴から触れられたくない事などにも配慮し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応について工夫している。利用者に合わせた呼び方をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話から本人の思いを探り、思いを出せるような話の持って行き方や、対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	『したいこと』『したくないこと』をしっかりと聞き取り無理強いせずに希望に沿った対応に心掛けている。急な外出希望にも対応。どうしても難しい場合は代替え案を出す等希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や理髪時の希望(長さや実施するかどうか)をきいている。外出時はおしゃれ着を着てもらったり、行事の際は家族からも協力をもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの食事を提供し、その能力に合わせて利用者の方にも一緒に行なってもらう。楽しみを持つための行事食は管理栄養士や委員会の職員が会議で話し合いを持っている。	メニューは管理栄養士が作成し、調理担当職員が調理している。利用者は、盛り付けや食器拭きなどできる事を一緒に行っている。誕生日には利用者の希望するメニューを用意し、クリスマスではバイキング、正月にはおせち料理、ひな祭り、花見など、郷土料理や季節感が味わえ楽しい食事になるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来る限り自分の力を活かして摂取できるように支援をし、24時間パターンシートを活用して把握し、主治医や看護師、管理栄養士に相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人に合った口腔ケア方法を実施したり、行ってもらっている。義歯の管理は話し合いながら職員が手伝っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録しそれを活かしながら排泄のコントロールも行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、昼間は声掛け、トイレ誘導など、夜間もコール対応や、声掛け誘導など本人に合わせて支援している。消臭にも気を配っている。便秘対策として、バランスのとれた食事、水分や乳製品の摂取を心掛けている。医師の処方薬を服用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師や管理栄養士と相談しながら行い、飲食の記録を取り活用している。主治医と連携し便秘に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿った入浴に対応し、夜間浴も実施している。	入浴は週3回を基本とし、午前と午後、希望に応じて夕食後に入浴する人もいる。檜風呂で職員と会話をしながらゆったりと入浴している。利用者の状態の変化に応じられるよう、リフト浴も設置した。柚子湯や菖蒲湯などで季節を味わう工夫もしている。入浴時は皮膚の観察や安全への配慮を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合った環境(空調や照明等)や寝具を整え、希望や体調により、寝たり起きたりする時間も変えて休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員が管理し、確実に服用できるようにしている。薬情報に基づき把握したり、薬剤師に情報を求めたりもしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的にその人が好むことを把握し実践。皆と同じことを無理強いせず、『したい』ことを優先的に行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年間計画をもとに実施する他、急遽な外出にも対応できるようにしている。特に外出には力を入れている。	年間計画を立て毎月、初詣や花見、うみの杜水族館、紅葉狩りなどに出掛けている。福祉車両で、車椅子の利用者も一緒に外出できるよう支援している。家族の協力により、買い物、外食、墓参りに出掛ける利用者もいる。晴れた日はウッドデッキに出たり敷地内を散歩し気分転換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の思いを大切にし、能力に応じ金銭を所持したり、買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は無償で提供しかけたり、時間に制限なくかかってくれば取次ぎを行っている。手紙を出したいときは切手購入の支援や投函も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間づくりを行い、自然光を取り入れながら照明でも調整。室温も調整し、冬季は視覚からもぬくもりを感じられるように薪ストーブで暖を取っている。また、混乱しない程度の季節に合った飾りつけも行っている。	リビングルームは天井が高く広々として、テーブルやソファ、小上がりの和室など、思い思いの好きな場所でゆったりと過ごすことができる。温・湿度は職員が管理し、冬場は加湿にも配慮している。玄関やリビング、廊下には利用者の作品や行事の写真が飾られている。大きな掃き出しの窓からは、季節の移ろいや外の様子を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内外にちょっとしたスペースを準備しており、利用者同士や、職員への相談もできるような配慮をしている。暖かい時期には共有の庭にある東屋もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの趣味物を飾ったり、作品があったり、思い出の写真が飾られたりしている。家具やペットも使い慣れた物を持ち込んだりしている。	エアコン、蓄熱式暖房機、洗面台、トイレ、クローゼットが設置され、明るくゆったりとした居室になっている。利用者は、家族の写真や家具、テレビなど、馴染みの物を持ち込み、居心地の良い空間となっている。温・湿度は職員が管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プライバシーを配慮したそれぞれの目印があったりと、残された自分の力を十分活用できる配慮をしている。		